

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (中国)	良く なっている	テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・夏休みに先駆けて開催した展示イベントによる誘客が好調であり、来園者数が前年同月比で約4割増加している。低料金で家族が楽しく過ごすことができる点が不景気感漂うなかで改めて見直されている。
	やや良く なっている	スーパー(店 長)	来客数の動き	・開店時間を早めたこともあるが、来客数がわずかながら増加傾向にある。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・気温上昇により盛夏商品の動きが活発で、クールビズ商品も昨年以上に売れている。
		コンビニ(地域 ブロック長)	販売量の動き	・内食ニーズ対象商品の惣菜やファーストフードが好調に推移している。
		家電量販店(店 長)	単価の動き	・夏本番となり省エネ意識の高まりから、高省エネタイプの冷蔵庫やエアコンの販売構成比と単価が上昇している。再生エネルギーである家庭用太陽光発電が国と地方自治体の補助金制度も追い風となり需要が高まっている。
		家電量販店(販 売担当)	来客数の動き	・暑くなりボーナス時期でもあるので景気が良い。
		乗用車販売店 (統括)	販売量の動き	・7月の販売量は前年の3割増と好調に推移しているが、8月にエコカー補助金が終了する見込みで、それ以降は厳しい状況になる。
		その他専門店 [和菓子](経 営者)	来客数の動き	・大河ドラマが当地ゆかりの時代になり来客数が増加している。
		その他専門店 [時計](経 営者)	単価の動き	・後半は猛暑の影響で客足が悪くなったが、売上が前月比、前年比ともに上回った。
		一般レストラン (外食事業担 当)	来客数の動き	・ボーナス支給時期でのメニューの切替えや7月下旬から宴会需要やファミリー客の増加もあり、昨年より1割程度の増加で推移している。
		その他飲食 [サービスエリ ア内レストラ ン](支配人)	お客様の様子	・客は休日の外出を控えなくなり、減少していた週末の来客数が回復しつつあり、店頭販売コーナーでも落ち込みを回復している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・今月から夏休みに入り子供連れや観光客が少し増えている。	
	通信会社(企画 担当)	お客様の様子	・対面営業のなかで、客の新サービスへの関心度は若干高くなっている。	
設計事務所(経 営者)	お客様の様子	・消費税率の引上げが実施される前に戸建て住宅を建築したいという引き合いが増えてきている。		
変わらない		商店街(代表 者)	来客数の動き	・来客数と売上から考えると、景気の悪さが底である。
		商店街(理事)	お客様の様子	・客が欲しい商品のみを買う傾向は変わらない。
		商店街(代表 者)	お客様の様子	・客の飲食単価が低くなっている反面、気温が暑いと冷たいものを扱うところや涼しいところの来客数が増えてきている。
		商店街(代表 者)	来客数の動き	・各都市の競争が激化し、観光客が少ない。
		一般小売店 [靴](経 営者)	販売量の動き	・夏休みやセール開始などがあっても客の動向に盛り上がりはない。安定した売上はあるが、プラス分が期待できない。
		一般小売店[印 章](経 営者)	お客様の様子	・株主総会後の役員人事異動が多く、7月初めは仕事が多かったが、猛暑の影響で営業活動の動きが止まっている。
		百貨店(営業担 当)	お客様の様子	・大手メーカーがバーゲン時期をずらしたので二期に渡ってバーゲンがスタートし、大きな仕掛けを行っても客足の盛り上がりは今一つである。
		百貨店(販売促 進担当)	お客様の様子	・今年の夏セールは、7月1日から7月13日からの二段階のスタートとなり、曜日条件も悪く、初日から盛り上がりには欠け、第二弾がスタートしても前半の遅れを吸収できない。酷暑継続の中、客の購買も単品へシフトしてきており、単価も低下している反面、宝飾・美術といった高額品の動きは引き続き好調である。

百貨店（購買担当）	お客様の様子	・今月前半は日中でも気温25度前後で夏物の動きが鈍かったが、中旬以後気温が30度以上という日々が続いて夏物衣料の動きが良い。クールビズの寝具類がヒットしており、気温に対する商品の買い方が顕著にみられる。
百貨店（販売担当）	販売量の動き	・クリアランスセールスタートがブランドによって月初からと半ばからとで異なったため、客が分散し、売上も前年から6%の低下と厳しい結果となっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・客単価に変化はない。
スーパー（店長）	競争相手の様子	・競争相手の特売価格が強く、クーポン開始などの動きが出始めて売上がやや停滞しつつある。
スーパー（業務開発担当）	来客数の動き	・来客数は平常時前年並みで週末は前年を1～2%上回っており、この2～3か月は同じように推移している。
スーパー（財務担当）	来客数の動き	・夏季賞与の支給はあったものの、来客数、客単価ともにほとんど変わっていない。
スーパー（販売担当）	お客様の様子	・海水浴などの行楽の途中に立ち寄り客も増えたが、売上は伸びていない。
スーパー（管理担当）	競争相手の様子	・ディスカウント店の影響で、オープン月から客足は戻ってきたものの来客数減少の状況は続いている。
衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・来客数は減少しているが、売上に変化はない。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・エアコンは出ているが、単価が安い品ばかりが売れる。
乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・エコカー補助金終了前の駆け込み需要を期待していたが、2年前に比べて低調である。
乗用車販売店（副店長）	販売量の動き	・エコカー補助金制度が実施されているが、昨年と比較して爆発的な販売量には至っていない。
その他小売 [ショッピングセンター]（支配人）	来客数の動き	・夏のバーゲンセールがスタートしたが、以前のような爆発的動向はなく、買上点数も少ない。梅雨明け後の猛暑による生活必需品の動きは良いが、衝動買いの買物動向はみられない。
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・ボーナス時期で人の動きが良いが、景気を左右するほどではない。
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・夏休みに入り来客数は増えているが、個人向けのイベントでの売上は伸びていない。
観光型ホテル（支配人）	お客様の様子	・7月に入ってから夏休みの宿泊予約の問い合わせは増えていないが、直前予約が多く、結果として前年並みの入込である。料飲部門も低価格商品は好調に販売できているが、高価格帯の商品は売れていない。
都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊の稼働率が上がっており、週末のファミリー客が前年と比べて増えているが、ほとんどがインターネットからの予約で客単価は上昇していない。
タクシー運転手	来客数の動き	・22時過ぎの仕事量が減少している。
タクシー運転手	お客様の様子	・暑さや雨のために人の動きは鈍い。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・客の節約モードに変化はない。
通信会社（広報担当）	販売量の動き	・新機種が順次発売となっている。
テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・来館者数、購買金額の動きに変動はない。
ゴルフ場（営業担当）	競争相手の様子	・直近の数か月は上向きであったが、現在は梅雨時期でもあり客の動きが鈍い。
競艇場（職員）	販売量の動き	・売上、来客数ともに横ばいである。
その他レジャー施設（アミューズメント）	単価の動き	・来客数は以前より回復しているが、単価が昨年比で80%未満となっており、悪いまま変わらない状況となっている。
美容室（経営者）	競争相手の様子	・広告宣伝費を削減している。
美容室（経営者）	単価の動き	・夏向けのメニューを提案しても定番注文がメインで、単価は低下している。
その他サービス [介護サービス]（介護サービス担当）	お客様の様子	・客との話のなかで景気が良くないとの言葉は日常的に聞くが、景気の変化がうかがえる話題はない。
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客は少しでも高額だと感じると動きが鈍く、まだ積極性がない。

やや悪くなっている	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・ネット商品購入などで地元での購買が少ないうえに、低価格路線に変化はみられない。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・購買意欲があまりなく、低価格で少量傾向が強い。
	住宅販売会社（営業担当）	来客数の動き	・例年梅雨から夏季は客足が鈍いが、それを踏まえても変化はない。
	商店街（代表者）	単価の動き	・バーゲン月で売上を期待していたが苦戦している。東日本大震災以後売上は伸びていたが、2～3年前のレベルまで低下している。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・中高年の来客数が多い商店街で、天候不良が出足に影響している。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・地元の夏の風物詩である夏季大祭が晴天、猛暑のなか無事に終わったが、入出は例年どおり多かったにもかかわらず、財布のひもが大変堅くなっており、各商店の売上は軒並み前年割れしている。
	一般小売店〔酒店〕（経営者）	お客様の様子	・中元商品は昨年とほぼ同様の注文があり、まずまずの状況である。今月は天候不順の影響が出ており、梅雨の集中的長雨や2日ごろからは毎日のように激しい雷雨があり、来客数に影響が出ている。
	一般小売店〔酒店〕（経営者）	販売量の動き	・この暑い時期になっても料飲店の販売量が減っており、例年よりも落ち込みがひどく、中元の数も減少し、価格も低下している。
	一般小売店〔紙類〕（経営者）	来客数の動き	・観光客数は好調であるが、客単価が減少し、安価な旅行をしている一方で、地元客は大型店舗に流れている。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・先月はやや持ち直しているかにみえたが、今月は各店舗とも昨年同月比で80～90%と大きく落としており、100%を超えている店舗が1割弱となっており、セールの効果は一時的で、その後は低迷している。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・前半の天候不順により、パラソルや帽子など季節アイテムの売上が減少している。梅雨明け後、販売量を持ち直したが、クリアランスの日程の遅れもあって若干前年を割っている。
	百貨店（売場担当）	来客数の動き	・今までは比較的好調に推移していた食料品部門も苦戦を強いられている。月前半は夏のバーゲン後ろ倒しの影響が否めず、後半に入ると酷暑やオリンピックスタートなどで客の足が遠のいている。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・高額品は売れるが、宝飾品は売れないので全体的な売上は悪い。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、売上は前年の96%である。
	スーパー（総務担当）	単価の動き	・高気温による買物頻度の低下や買い控えがある。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・7月下旬から急速に販売量が低下している。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・同じカテゴリー内で高単価商品の動向が低調となり、単価低下が続いている。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客がボーナスが減ったと言う。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・将来への不安で消費者の購買力が落ちている。
	衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・来客数は増えず、必要なものしか購入しない。
家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・新規購入よりも費用がかからないのであれば修理で済ませる客が増えている。また購入する場合でもとりあえず今ある物で済ませようとする客が多い。	
その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	単価の動き	・平日の来客数が減少しており、土日に集客はあるもののセール品ばかりが動く。	
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・週末の家族客も少なく、全体的に来客数が減少している。	
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・梅雨明けし、例年であれば客の動向も消費意欲の出る時期であるが、今年は来客数、売上ともに減少し、客単価も低下しており、路面店、マーケット内店舗も同じ傾向である。	
一般レストラン（エリア担当）	競争相手の様子	・飲食業態にも価格破壊の波が押し寄せてきており、とても厳しい状態が続いている。	

		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・市内全域で、特に関西や九州方面からの観光客数が昨年に比べて減少している。昨年は東日本大震災後に西日本へ客が流れていたが、今年は東京方面に人気が集まっている。
		都市型ホテル (企画担当)	単価の動き	・来客数は多少増えているが、単価が大きく減少しているため収入が減少している。
		旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・例年であれば今は盆時期の旅行予約が増える時期であるが、本年度はそれがない。
		通信会社(通信事業担当)	販売量の動き	・通常であればオリンピックなどの大きなイベント前には多少の需要増があるが、今回は特に目立った効果もなく、逆に例年より新規獲得数は減少気味である。
		通信会社(工事担当)	販売量の動き	・申込数が前月比、前年比で減少している。
		テーマパーク (広報担当)	来客数の動き	・団体旅行による観光客が一気に落ち込んでおり、昨年の30%減となっている。個人客の伸びも少なく厳しい状況である。
		美容室(経営者)	単価の動き	・暑さの影響なのか、客単価、来店頻度ともにやや低下傾向である。
		設計事務所(経営者)	競争相手の様子	・建築設計関係は新築がほとんどない状況で、今は官庁から公共建物の耐震補強が出ているが、先行きは不安である。
悪くなっている		商店街(代表者)	それ以外	・7月の第一週目はまだ購買意欲があったが、それ以降売上数量、金額共に大変厳しい状況にある。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・肉、野菜、麺類の動きが悪く、前半は冷夏の影響で飲料と涼味関連の動きが非常に鈍い。
		スーパー(販売担当)	お客様の様子	・例年に比べ、今季は夏物バーゲンに入るタイミングを1週間~10日後にした影響もあってか、月前半の客の出足、購買意欲が極端に低下している。
		コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・天候不順や昨年の競合店閉店後の高水準の影響で来客数、売上ともに先月から10%落ちている。
		コンビニ(副地域ブロック長)	来客数の動き	・競合店出店の影響もあるが、天候が昨年より悪く、来客数が減少している。昨年はたばこ増税や東日本大震災の影響の特需があったが、今年はそれがなく苦戦している。
		乗用車販売店(営業担当)	お客様の様子	・所得の低下の影響で、自動車の購入という大きな出費に対して、今まではすぐに結論が出ていた客もなかなか決断できない状況である。
		乗用車販売店(店長)	お客様の様子	・新型商品への食いつきが悪く、客の購買意欲が全く感じられない。
		自動車備品販売店(経営者)	販売量の動き	・この3か月前年割れが続き、前年を下回る比率が大きくなっている。自社だけでなく同業他社も同じ傾向がみられ、業界全体が冷え込んでいる。
		自動車備品販売店(経営者)	販売量の動き	・販売量が減少し、販売単価も低下しており、単価の安い海外製品を消費者が望んでいる。
		住関連専門店(営業担当)	来客数の動き	・来客数、客単価ともに減少している。
		その他専門店[布地](経営者)	来客数の動き	・消費税が上がる情勢で、客は高齢者が多いので、生活防衛に入っている。
		その他専門店[海産物](経営者)	来客数の動き	・先月に続き、来客数が団体、個人ともに少なく、夏休みに入っても例年のように観光客が増えない。
	企業動向関連 (中国)	良くなっている	輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き
やや良くなっている		木材木製品製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・新設住宅着工数が回復傾向で、東北は復旧要因で大きく増加しているが、大きな需要のある首都圏の伸びは低い。
		化学工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・主要取引先の増産計画がほぼ予定通り推移しており、受注量全体を押し上げている。
		窯業・土石製品製造業(総務経理担当)	受注量や販売量の動き	・各所の工事案件の納期が重なり、生産は好調な状況であり、工場二次製品化して出荷する部門も鉄鋼業向けを中心に受注が好調である。
		輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・良い地区と悪い地区の差が極端に出ているが、宅配便、メール便とも前年をクリアしている。伸びは鈍化し、個人市場が前年割れとなっているものの、トータルでは前年をクリアしている。

	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・様々なイベントや夏の高校野球等で活気のあるシーズンを迎え、その動きに伴い受注が増加傾向にある。また行楽シーズンでもあり、旅行業界の動きも良く、デパートの販売促進も拡大している。	
変わらない	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・在庫がさばけない状況である。	
	化学工業（総務担当）	取引先の様子	・円高、エネルギー問題等、輸出品の競争力のマイナス要因が多い。	
	鉄鋼業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・3か月前との比較では大きな後退感はない。	
	非鉄金属製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・得意先からの受注動向に特段の変化はみられない。	
	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量はここ数か月変化はなく、生産能力の60～70%程度で推移しており、厳しい状況が続いている。	
	輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は予定通りであるが、エコカー補助金などにより好不調にばらつきがある。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・マンションがすでに完売の業者がある一方、公共工事の動きが鈍く状況は悪い。	
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・小口工事が大半を占め、短工期であるため忙しい割には利益が上がらない。	
	輸送業（業務担当）	取引先の様子	・5月までは輸出業務、鉄製品の製造が順調であったが、6～7月はその勢いがなくなってきている。	
	通信業（営業企画担当）	受注量や販売量の動き	・製造業を中心に3か月前より受注量と販売価格には大幅な動きは出ていないが、引き合いは続いている。	
	金融業（自動車担当）	取引先の様子	・自動車部品業界では、円高による完成車メーカーの輸出採算悪化からコストダウン要請が続いているが、増産による生産性向上で収支は低水準ながら横ばいである。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・景気回復について明言する取引先は少ない。当地において医療関係、マンション業者等は堅調業績となっているが、製造業・サービス業・小売業の業況は依然として低位で推移している。当地百貨店で久しぶりに売上が前年同月をクリアしたとの話があったが、上回った額はわずかである。業況低迷している企業は人件費を中心とした経費削減により何とか事業継続している状況に変わりはなく、地域全体の景気も大きな変化はない。	
	不動産業（総務担当）	それ以外	・来店数、成約件数は横ばいである。	
やや悪くなっている	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・欧州の信用不安がいまだ終息していない。	
	電気機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・エコカー補助金終了に伴う車の駆け込み需要が期待ほどではない。個人消費は表面上堅調だが、先行き不安材料は残る。	
	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・エコカー補助金が終わりに近づき、受注減になっている。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・円高が進むなか発注が海外に向き始め、国内生産分が減少している。	
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・地場である程度の規模の工事業者が倒産し、クライアントのうち何件かは手形が不渡りになるなど、経営に打撃を与えるような影響が出始めている。	
悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・3か月前と比較すると水揚げ数量778t、水揚げ金額は8,660万円の減少である。単月前年度比では水揚げ数量は143%、52tの増加、水揚げ金額は123.3%、6,170万円の増加である。	
	食料品製造業（総務担当）	取引先の様子	・取引先の売上が悪いという情報が多くなってきている。	
雇用関連 (中国)	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・派遣活用の動きが戻ってきている。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・例年であれば短期の人員依頼がおう盛な時期であるが、今年はそのような派遣依頼がめっきり減っており、受注数も3か月前と比べて横ばいである。

	求人情報誌製作会社（広告担当）	求職者数の動き	・新規求人は増加している印象があるが、欠員による補充という採用がほとんどで、事業拡張、新規事業による人材採用などの好景気による採用活動とは異なる状況である。
	求人情報誌製作会社（採用支援担当）	採用者数の動き	・近年採用を絞った影響で採用目標数は増加傾向であるが、採用予算は増えず、厳選採用の傾向は続いている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・求人広告は新規開業に伴うアルバイト、パートくらいで相変わらず鈍く、主要な地場企業の多くは来年度の新規採用試験を終えたが、採用数を増やした事業所はわずかである。今年採用を見送ったので来年はとりあえず退職者補充程度に少人数採用しておくところが目立つ。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・岡山県の5月の有効求人倍率は前月から0.04ポイント上昇しているが、県外や非正規での求人が多く、正規雇用希望者には厳しい環境が続いている。
	職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・新規求人数は増えていないが、求職者数が減少している。正社員の求人数にも変化はないので、求人倍率も3か月前と変わらない。
	職業安定所（産業雇用情報担当）	求人数の動き	・新規オープン2店舗のパート求人では6月の新規求人数は3か月前と比べて9.4%の増であるが、それを除けば変化はない。
	民間職業紹介機関（職員）	雇用形態の様子	・求職人材の能力にもよるが、正社員募集の求人に対して面接の結果、非正規であれば雇用できると数社から同様な回答があった。依然選考に厳しい状況であることがうかがえる。
	民間職業紹介機関（人材紹介担当）	周辺企業の様子	・特に目立った動きが見当たらない。
	学校〔短期大学〕（学生支援担当）	求職者数の動き	・特に変化はない。
	その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕（職員）	求人数の動き	・求人は建設業で河川改修や学校の耐震工事の公共事業が活発となったため大幅増となった一方、昨年複数の飲食店チェーンの増員があった反動で宿泊業・飲食サービス業が大幅減となり、求人全体では横ばいとなっている。
やや悪くなっている	職業安定所（産業雇用情報担当）	求人数の動き	・新規求人数が前年同月比0.7%減少している。産業別では電気機械製造業が前年同月比43.8%、サービス業が52.9%とそれぞれ減少している。
悪くなっている	-	-	-